

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、それでは始めさせていただきます。まずはウクライナの支援の件であります。3月1日、ご存じのとおり、静岡市議会の本会議において全会一致で「ロシア連邦によるウクライナ侵略に断固抗議する決議」が可決されました。1週間後の3月8日には、静岡庁舎本館のあおい塔、駿府城公園の坤櫓、巽櫓をウクライナの国旗の色、青色と黄色でライトアップをいたしました。1日も早いウクライナの安定と平和の実現を願うという気持ちを込めました。そうしたならば、市民の皆さんからも大きな、支援をしたいという反響もありました。その中で刻々と情勢は変化しているのはご存じのとおりです。戦火から逃れた方々が、西側の諸国、ヨーロッパ諸国へ、もう260万という数字でしたか、本当に多くの難民の方々が国外に逃れているという現状であります。戦火に逃れる方々、日本もこの受け入れをしていこうという岸田総理の意向もありますので、私ども静岡市も国と連携をして必要な支援をしてまいりたいと考えております。スライドをご覧ください。当面の我々としての支援は次の三つだろうと思います。まず、「住まいの確保」であります。市営の住宅20戸をすぐに入居できるように準備しております。それから、二つ目は「通訳の支援」であります。市内在住のウクライナ出身の、ウクライナ語が話せる方の協力を得て、静岡市の国際交流協会と連携して、ウクライナ語の通訳のサポートの便宜を図っていきたいというふうに思っています。そして、三つ目は「相談体制の確立」であります。これは、静岡市国際交流協会の中で静岡市多文化共生総合センターを設置しておりますので、これは当事者の方々だけではなく、ウクライナ人のお知り合い、ウクライナ人を知っているというお知り合いの方々の皆さんからの相談も含めて、これを受けさせていただき、つないでいきたいというふうに思っております。さらに、これは需要があったらということではありますが、教育の面、小・中学校へ編入をすとか、日本語の学習をしなければいけないとか、避難をされている方々が、個別の状況に応じていろいろな需要が生まれるかと思えます。教育委員会とも連携して、きめ細かに対応する準備を進めております。一方で、市内にはウクライナの方も住んでいますが、ロシアの方も住んでおります。平和都市宣言をした私ども静岡市でありますし、多文化共生都市も目指しております。ロシア出身、ウクライナ出身を問わず、個人への誹謗や中傷などは、絶対に静岡市民の皆さんはやめていただきたいということをお願いいたします。ウクライナについては以上です。それでは、今日の話題、新型コロナワクチンの3回目の接種についてに移ります。延長

されたまん延防止の期間もあと1週間となりました。一方、春の行楽シーズンを迎えることとなります。外出の機会も増えるであろうと思います。外出の際には一層の感染予防に努めていただきながら、油断することがないよう、感染を拡大させることがないよう、引き続きご協力をお願いいたします。

それでは、スライドに準じて呼び掛けます。感染拡大を抑えるためには、予防対策と併せてワクチンの接種を進めていく必要があること、ご承知のとおりです。3月13日までには、VRS、ワクチン接種記録システムの上で静岡市民の皆さんの3回目のワクチンの接種率は22.4%となっております。このうち65歳以上の方の接種率は56.19%と、65歳以上の人口の半分を超える方々に3回目の接種を終えていただきました。

次のスライドをお願いします。静岡市では、この前の会見でも申し上げましたとおり、昨日まで、およそ30万人の市民の皆さんに接種券を、すでに発送しました。2回目の接種から6カ月を経過して、3回目の接種が可能となった方には全て、接種券が届いているということになります。

次のスライドをお願いします。にもかかわず、市の予約システムの上では、3月15日から4月10日までの間にご用意した約6万人の予約の枠に対して、3月13日の時点の予約数は、まだ約3万5,000人、予約率にすると58%ということで、予約の枠に空きがある状況であります。

そこで、スライド4、このスローガンですけれども「待つよりも打つ」、ファイザー、モデルナ、ともに予約の枠は空いておる状況ではありますが、比較的モデルナの枠がさらに空いている状況ですので、特にモデルナの接種をためらっている方が、いまだ多いのかもしれませんが、ですが、現在接種可能なワクチンは、いずれも接種に伴うデメリットよりも接種により得られる発症予防、重症化予防などのメリットが勝るとされております。ご自身が感染しない、周囲の人に感染させないためにも、予防対策と併せてワクチンの接種は有効であります。私も打てるタイミングになれば、モデルナのワクチンを打ちたいと考えております。今後引き続き、接種可能となるタイミングで随時接種券をお届けいたしますので、タイミングを待つよりも早く打つ、ぜひ機会を逃さずに接種をお願いいたします。予約支援窓口も3月までは開設をしておりますので、予約に不安がある方はこちらをご利用いただき、お早めにご予約をいただければと思います。

最後のスライドです。先日二日間、クーポール会館で接種券なし(注：正しくは予約なし)の接種を試みました。非常に好評でありました。そこで、1日でも早く一人でも多くの方々に接種していただきたいという思いで、本市では集団接種の会場、クーポール会館の予約枠の空きを活用して予約なしの接種を、明日3月16日の水曜日と、明後日、17日の木曜日の二日間、急きょ実施をすることにいたします。予約に空きの多い夕方以降に実施しますので、お仕事帰りなど会場近くを通られる方は、接種券をご持参の上、ぜひ気軽にお立ち寄りをいただくようお願いいたします。今後も皆さんが接種しやすくなる環境整備に取り組んでまいります。ワクチン接種は以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

すいません、ウクライナの件でもよろしいですかね。今、市内在住のウクライナ関係者ってというのはどれぐらいいるんですかね。

◆市長

市内在住のウクライナ人は5名です。

◆読売新聞

5人ですか。その方々が通訳に当たられるという…

◆市長

その方々で接触している方、ちょっと補足をお願いします。私は国際交流協会の会長も兼任をしていますので、この国際交流協会と静岡市観光交流文化局の国際交流課が連携して対応に当たっているという状況です。お願いします。

◆国際交流課長

国際交流課長の萩原と申します。市内に在住のウクライナ人の方から、通訳の支援ができるということで国際交流協会のほうに申し出をいただきました。今後受け入れがあった場合には、ご協力をお願いしたいというふうに考えております。

◆読売新聞

あと、すいません、相談窓口での対応とは具体的にどういう、住むに当たっての、いろいろ、避難者の方が、その相談に対応するということですかね。

◆市長

そうです。補足があればお願いします。

◆萩原

静岡市国際交流協会では、日頃から外国人の方、また、日本人の方でも多文化共生に関するいろいろな相談を受け付ける窓口を持っております。資料のほうにありますけれども、支援3の下のところ、すいません、ちょっと資料、訂正させていただきたいのですが、正式名称が静岡市多文化共生総合相談センターと言います。すいません、相談

が抜けておりました。申し訳ございません。こちらのほうで一体的に日頃から相談を受けておりますので、ウクライナの方に関することも、もちろんこちらのほうで相談を受けさせていただきます。

◆市長

これを機会に、このセンターのことのPRをしていきたいと思います。3年前になりもの入りで開設したのですけれども、まだ在住の外国人の方々に、そんなに伝わっているということではないようだということですので、いい機会でもありますので、ぜひ何か静岡市内でお困りのことがあったら、ぜひセンターをご活用いただきたいということ呼び掛けたいと思います。

◆司会

その他いかがでしょうか。それでは発表案件につきましてはよろしいでしょうか。では、幹事社質問に移りたいと思います。共同通信さん、よろしくお願いいたします。

◆共同通信

幹事社の共同通信です。よろしくお願いいたします。2点あります。1点目は、新型コロナウイルスの5歳から11歳向けの接種が3月12日から始まりました。予約状況や接種状況教えてください。

◆市長

すでに接種券は発送いたしました。約3万8,000人のお子さまに発送をしました。予約枠は、3月12日から4月1日の第1クールの期間で、市の予約システムの上で4,813の枠を準備しております。3月11日の時点で既に4,798人の予約をいただいております。現在、予約枠はほぼ埋まっているという状況です。また、3月12日の接種開始から本日までに、およそ800の方が、お子さんがですね、接種をする見込みです。現時点で、4月の末までに約2万3,000人のワクチンの供給が見込まれておりますので、今後も国から供給されるワクチンの量に合わせて、予約の枠を準備していきたいと思っています。

◆共同通信

ありがとうございます。2点目ですが、静岡市は先日の市議会で、JR東静岡駅北口市有地をアリーナの誘致予定場所に選定したと表明しました。長らく塩漬けになっていた土地が有効活用されることへの所見をお聞かせください。また、規模や事業手法はこれから検討するとのことですが、どのような施設にしたいとお考えでしょうか。

◆市長

そうですね、これは本当に長年の課題でありました。旧静岡市と清水市が合併をしたときの計画から多目的アリーナ整備ということは記載をされていたわけなんですけれども、以来、私にバトンが渡された中、3・11がありまして、なかなか、こういう大型の投資ができない状況が続いていたわけでありまして。また、「このはなアリーナ」の整備も相まって、私どもも東静岡の他にアリーナを建設する場所がないか、というようなことも検討したということになってきましたが、今回、JR東静岡駅北口市有地をアリーナの誘致予定場所として選定したことについて、まずは最初の一步でありますけれども、本市の未来につながる価値のある一步が踏み出せたものと考えております。そして、本市の目指すアリーナは、このはなアリーナとは違います。市民自らがスポーツをする、このはなアリーナはアマチュアの、いわゆる草薙体育館から整備をし直したものでありますけれども、私どもの、このアリーナは、スポーツをするいわゆる体育館ではなく、国際レベルの最高峰のプロスポーツの観戦や、あるいは、今まで静岡市ではコンサートができなかったビッグアーティスト、有名アーティストの大規模なコンサートを開催するなど、「まちが劇場」の推進ということも5大構想に掲げてありますので、トップレベルの上質なエンターテインメントを市民の皆さんが身近に見ることができる、そういった機能を重視したアリーナであります。今回、誘致予定場所として選定したJR東静岡駅北口の市有地は、有識者や事業者などから、広域からの集客が見込まれる、非常に高いポテンシャルを持った土地であるというふうに評価されておりますので、皆さんが知っているような人気の高い有名アーティストによる全国ツアーの会場にもなり得ると評価をしております。このアリーナに、市民の方はもとより、県内外から大勢のお客さんがこの静岡にいらっしやっただき、そして、これが地域経済の活性化にもつながる、交流人口の拡大にもつながっていけばいいというふうに考えております。期待をしております。

◆共同通信

ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関するご質問をお受けしたいと思います。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。アリーナについて伺います。市議会でも答弁ありました123億円という経済効果について、ちょっとどういう計算かなと内訳をいろいろお尋ねしたところ、所管のほうからは、8,000席の場合は、その8,000席が95%売れるような音楽イベント

が年間 40 と、そして 1 万 7,500 人が来るような静岡ホビーショーレベルの催事が年間 12 と、5,000 人が来場するようなセミナー・式典が 36 回と、なかなか強気な想定で弾いていらっしゃるようですけれども、音楽イベントはともかく、静岡ホビーショーレベルの催事が月 1 回開かれるって、どんな想定なのか、12 個挙げろとは言いませんので、ちょっと三つ、四つ、市長、例えば「こういう催事だ」と、例を挙げていただけませんか。

◆市長

初めてそのことについて聞きましたので、私から例を挙げるということではなく、一つの可能性として、これから静岡でも駅の正面にアリーナができたということの PR が全国的に行き渡れば、いろんなニーズがあろうかと思います。東京にメッセが集中をするという流れの中で、ホビーショーも静岡でやることに意義があるわけです。そういった、西日本と東日本の中間にある静岡の、メッセをやる有利性、交通アクセスの良さ、日本のだ真ん中にありますので、そういった意味では、ここの会場でメッセをやりたいということは、そうですね、見本市をやりたいという可能性は出てくるのだろうというふうに思っておりますし、MICE の推進という見地からも、私はそれを推進していきたいと思います。

◆NHK

確認ですが、ツインメッセでやっているような大規模イベントはそのまま残しつつ、アリーナで、今、申し上げたようなイベントが純増するということですね、経済効果とおっしゃるからには。

◆市長

そうですね、そういう可能性を私は積極的に推進をしてきたいと思います。人口活力の維持という点で、定住人口だけに依拠せず、交流人口、関係人口を増やしていきたいというふうに思いましたので、これはメッセとアリーナと、事業者によっていろんな場合分けができると思いますけれども、いろんな受け皿があることが交流人口の拡大になると、こういうふうに私は期待しております。

◆NHK

お金、コストを考えたときに、経済効果がどの程度中身があるかというのは非常に重要なことですので、「この先、ホビーショーレベルのものが月 1 回開けます」「実際にイベントが来ます」と、ある程度約束できるのでしょうか。

◆市長

それはポストコロナ時代の民間の経済の回復状況にもよることだろうと思います。

◆NHK

分かりました。もう一つ、市長、市民の期待が非常にアリーナに対して大きいということ強調しておられますけれども、実際、アリーナ、あれだけ住宅街、タワーマンションが隣接する地域ですので、住民の方の期待どんなものかなと、私、歩いてみました。町内会長さん、ある程度見識を持って市の説明を受けてきた方々のレベルの発言として、「アリーナができることで想定される諸問題に対応を求めているけれども、市から具体的なものが示されないのが現状である」と、「市の説明は机上の空論で、不信感を持つ人もいる。このままアリーナ造るんだったら、もう千代田学区は来年、田辺は応援しないぞ」と、こういうような発言を立ち聞いて撮影しております。今日、夕方ニュースで放送しようと思いますが。市長、もう、これでひょっとしたら政治活動終わり、もう千代田学区の長年お世話になった方から見放されても構わないから不人気政策進めるといふことなのかもしれませんけれども、こんなに近隣住民に反発を生んだ状態で民間事業者からも懸念が出てくると思いますが、どう今後対応していかれるのでしょうか。

◆市長

私は、そういう方がいらっしゃるんだったら、お会いをしたいというふうに思っております。そして、直接、私の今の思いをお伝えして、理解に努める努力をしていきたいと思っております。本当に市民の方々からいろんな期待ももらっています。あるいは、人口活力の維持という点で、若者の流出ということ、我々、なんとか流れを変えていきたいなというふうに思っています。そうしたときに、若い方々からよく出てくるのは、アンケートなんか、声なんかにもありますけれど、「やっぱり、私たちが見たいコンサートが静岡は来ない。横浜の次は名古屋に行ってしまう」と、「静岡で、もっと大規模なコンサートが私たちが望むようなコンサートができれば、静岡でいいんだけど」、そういう文化機能というかな、エンターテインメント機能が静岡は弱いから、どうしても東京の大学に行くんだ、あるいは、県外に行ってしまうんだと、そういう声も多かったんです。ですから、そういう声を受けて、静岡でもこういう上質な、世界レベルの、あるいは全国レベルのアーティストがコンサートをできるような、そういう会場が欲しいというのは、ずっと私が聞いてきた声ですので、そんなことも含めて、そういう反対をされる方がいらっしゃったら、誠心誠意私は思いを伝えて、また、ご意見をいただいて、近隣対策との両立を図っていききたいというふうに思っています。

◆NHK

もう少し町内会長さんのお言葉お伝えしますと、「若い人が期待していると言うけれども所詮アリーナのイベントに来る人は来て帰るだけじゃないか」と、「若い人のためというんだったら働く場所とかを整備するほうが優先順位高いだろう」というご発言があるのと、それと、「一気にそういった8,000人とか1万人の人が来た時に終わった後に手持ち無沙汰な人が地区にたまってしまう」と、で、「終わった後にごみがいっぱいたまっていないのか」「人の間でトラブルでも起きないのか」、そういった、「一斉にどんと出てこられたときに、あの東静岡駅のJRだけで、臨時列車とか増発するのかもしれないけれども、あるいはシャトルバスをたくさん運航したら、それでまた渋滞が増えるのか」と、現状でも、土日、国1、マークイズに曲がる場所、ものすごい渋滞の列、何百メートルとできるわけですがけれども、こういった地域の住民の方に対する渋滞の懸念、騒音の懸念、トラブルの懸念、思いを伝えるではなくて、そういったトラブルをどう解消していかれるのでしょうか。

◆市長

記者がそういう取材を丹念にされたということは敬意を表しますが、だから記者は、アリーナは必要ない、造るべきではない、というお考えですか。

◆NHK

私の意見でなくて、地域住民がこれだけ課題の声を強く上げている中で、市長、思いを伝えるとおっしゃいましたけれど、課題をどう解消していかれるのか、交通の問題、騒音の問題、どうクリアしていかれるのですか。

◆市長

担当課の職員が何度もその辺り対応されているというふうに報告もらっていますけれども、先ほど申し上げたとおり、必要ならば、記者ではなく、そういう方々に対して直接、私が出向いてまいりたいというふうに思っています。

◆NHK

出向いて思いを伝えたところで、交通の問題や騒音の問題は解消されないと思いますが、それどうされるのですか。

◆市長

いや、そんなことはないと思いますよ。



◆NHK

交通の問題どうされます。渋滞対策は。

◆市長

いろいろな解決方法を、建設局のほうとも、あるいは国道事務所のほうとも、ニーズに応じて、私は要望していきたいというふうに思っています。

◆NHK

そういうお答えしかできないから、まさに町内会長さん方、具体的なものが示されなくて不信感が募っているとおっしゃるのだと思いますが、分かりました、これ以上、市長から答えが出てこないと思いますので。

もう一つ、市の財政負担について伺いますけれども、議会答弁、副市長の答弁は、「一定の規模において収入がランニングコストを上回り、維持管理、運営時の採算性が取れる」とのお話でした。逆に言うと、建設費は民間のほうでは賄えないということだと思います。この建設費、どういうふうに賄っていかれるのか、市が何十億円も拠出されるのか、お考えお聞かせください。

◆市長

これは民間主導でやるということに意味のある事業でありますので、それが基本であります。記者がどのくらいその辺りについて取材を重ねているかは存じませんが、今、企画局のほうで、ここについてはいろいろ研究をして事業者にも当たっていますので、少し補足を実務的にお願いしたいと思います。

◆アセットマネジメント推進課長

アセットマネジメント推進課、山田です。よろしくお願いします。これまでのサウンディング調査、民間の事業者さんに対するサウンディング調査では、「イニシャルの部分についても完全に民間のほうで賄うというのはちょっと難しいよ」と、そこで、何らかの行政支援ということも視野に入れてほしい、ということは聞いているところです。ただ、事業スキームや規模、設備、この辺によっても、ずいぶんイニシャルコストというのが変わってくるものですから、今後、事業者になり得る、そういう民間の方々と、サウンディング調査、ヒアリングを進め、そういったところを埋めていくように検討していきたいというふうに考えております。以上です。

◆NHK

課長、ありがとうございます。市長、伺いますが、そういった費用の問題、見通しが立っていない中で、長沼の地域にとって、もしかしたら重荷になるかもしれないものを

造って、施設を、言葉を、また町内会長さんからお借りして言いますと、「墓場だけが残るんじゃないか」というご発言も聞いています。こういった、ちょっと暗い感じで受け止められているこの事業、市長は、どういうふうに進めて説明してかれるんでしょうか。

◆市長

私は明るい展望を持っています。やはり、このアリーナで若い方々がいろんなエンターテインメントを楽しめる環境、そして、静岡に住んでくださる環境、そして、そういう静岡にいらっしゃった方々が、経済活動、消費活動してくださり、交流人口の増加につながるということに対して、やはり私たちは、3次総にも記載をしている5大構想の一つの事業ですので、進めてまいりたいなというふうに思います。

◆NHK

まずは結構です。ありがとうございます。

◆司会

それでは、幹事社質問に関連するご質問、その他いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

東静岡と言いますと、県も県立中央図書館を移設することを決めましたけれど、今後、静岡市と県が共同でというか、力を合わせて、あの地域全体のまちおこしをしていこうというような構想はあるのでしょうか。

◆市長

そうですね。私が市議会議員に初当選した30年前に、東静岡ドームシティ構想というものがありました。その時は、市と県が共同で連携して、そして、東静岡に新しい都心、新都心の拠点を整備しようという構想でありました。私はそれを一つの原点にして、これから県と連携をして、あの東静岡草薙地区を教育・スポーツの拠点として積極的に整備をしてまいりたいというふうに思っています。静岡都心が歴史文化の拠点です。清水が海洋文化の拠点です。そうすると、合併によって市境がなくなりましたので、中間の東静岡草薙拠点は、教育・スポーツの文化の拠点というように位置付けていきたいというふうに思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。幹事社関連でよろしいですか。NHKさん、お願いいたし

ます。

◆NHK

すいません、たびたび。その、東静岡、教育・スポーツの拠点ということについても、ビジョンが具体的に見えないとやっぱり地元の方おっしゃっています。「コンサートやスポーツ、国際レベルの競技をやることが子育てにどう関係あるのか」と、「東静岡は子育ての拠点にするという話じゃなかったのか」と、このようなことにも反発を持って、市長のビジョンがないということをおっしゃっておられるのですけれども、結局、東静岡をどういうふうに教育の拠点にされたいのか、もう少しお聞かせいただけますか。

◆市長

言っている意味があまり分かりません。子育ての拠点に東静岡をする、なんていう言い方はしていません。教育の拠点として大学を集積するということは言っていますけれど、それは事実誤認です。

◆NHK

じゃあ、とにかく若い人が何千人も集まってきて、子育て環境的には静ひつでない、伸び伸びできないような場所になっても、それは仕方ないということでしょうか。

◆市長

そんなこと一言も申し上げていません。

◆NHK

実際、住民の方の懸念はそこにもあるわけですがけれども。

◆市長

住民の方と自分の考えと、ちょっと区別して話をしていただきたい。

◆NHK

私の言うことが信用できないんですしたら、まさに町内会長さん方に話をしてみてください。

◆市長

直接、話をさせてください。

◆NHK

話す場を設けるのですか。

◆市長

はい？

◆NHK

話す場を設けるのでしたら、ぜひ取材に伺いたいのですが。

◆市長

分かりました。また、あなたの気持ちは受け止めますが、私は私の思いがありますので、よろしく願いいたします。

◆NHK

引き続き注目しております。

◆司会

その他、幹事社関連でいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

毎日新聞です。新年度の当初予算案には、NHKの大河ドラマ館の開設を含む推進費に3億円が計上されています。私は大河ドラマを見る習慣が全くないので、どうして一ドラマのために、こんなにも税金を使うのかな、と私は不思議に思うんですけども、市長は、この大河ドラマ館設置、推進事業については、どんな意義と、予算額についてはどんなふうにお考えでしょうか。

◆市長

これは大河ドラマ館だけではなくて、私たちにとって非常にタイミングが合った。私たちは、静岡都心の歴史文化の拠点づくりを推進していきたい。例えば、先日の会見でも申し上げましたとおりの歴史文化施設が来年の1月にオープンする。駿府城公園の中をフィールドミュージアムとして、これから求心力の強い地域に育てていこうと、この歴史の風情がある城下町、ここを一つ、市民が憩うだけではなくて、内外からたくさんの方々にいらっしやっただきたい、「徳川家康公が愛したまち」としてシティプロモーションをしていきたい、そんな方向性の中で、2023年「どうする家康」公の大河ドラマが放映をされるということであるので、この全国放送を最大限に活用

して、私たちの歴史文化の拠点づくりをPRしていきたいという思いであります。

◆司会

もうちょっとマイクに近づいてしゃべっていただいてよろしいですか、すみません。

◆毎日新聞

それだけの効果があるとしたら、本来は当事者のNHKが造るか、また、市長がよくおっしゃる民間活力に任せてもよいのではないかなと思うのですが、いわゆる行政が肩代わりする必要性というのが、やっぱりあるのでしょうか。

◆市長

それはやっぱり公民連携でやっていくということなので、一方が全てするというのではなくて、やっぱりNHKさんにもいろいろな協力をいただいている中での、公民連携の一つのスタイルだろうというふうに思っています。それから記者、ドラマをご覧になってないということでもありますけれども、大河ドラマはやっぱり1年で終わってしまいますよね。ですので、今まで自治体が協力して大河ドラマの舞台でそのような拠点を造ったりしたことがあるんですけども、そこはそれが終わってしまえば終わってしまうわけですよね。そうではなくて、この大河ドラマが行われる2023年、また、松本潤さんが主演ということでも注目をされて、若い方々も大河ドラマを見るということにも、NHKさんはそれを期待していてキャスティングしたと思いますけれども、嵐の中で徳川家康公を研究するクラブができたと言いますからね、嵐のファンクラブの中で、そういう期待もあるでしょう。そういう中で、大河ドラマ館で注目を集めた静岡市、2023年を、サステナブルに、今後、歴史博物館であるとか、駿府城公園とか、ライトアップもこれからしていったって、ナイトエコノミーも充実させていこうということなんですけれど、それにつなげていく、これがやっぱり問われると思いますので、そんなふうなサステナブルな賑わいの創出ということにつなげていきたいな、というふうに思っております。またお知恵をお貸しいただければなと思います。

◆毎日新聞

たしかに市長がおっしゃるとおり、これまでの大河ドラマのそういう活性化のまちおこしなんかを見ると、一時的に人は来ても、結局やっぱり一過性のものかなという、どれだけ何年前の大河ドラマを皆が覚えているのかな、というふうにも思うのですが、令和5年度分も含めると、5億円を超える負担を市がするというようなことなんですけれども、それに見合うものなのではないでしょうか。

◆市長

もう一度申し上げますと、大河ドラマ館ではなくて、歴史文化拠点をサステナブルに賑わいの拠点にしていきたいという意味での投資だという理解をお願いしたいと思います。

◆毎日新聞

分かりました。もう一点、新型コロナに感染した重度の知的障害のある男性が市立静岡病院に搬送されて、その後亡くなって、遺族の方が十分な診察を受けられなかったと主張して病院側に説明を求めています。田辺市長はどのように受け止めますでしょうか。

◆市長

まず、ご遺族の皆様には心よりお悔やみを申し上げます。その場の詳しい事情、医学的な判断、貴社の特報で私も初めて承知しました。分かりません。静岡病院が適切に対応して下さるといふふうに思っています。

◆毎日新聞

良い、悪いとまた別に説明は必要かなと思うんですけど、その辺りはいかがでしょう。

◆市長

そうですね。静岡病院のほうから詳しい事情を、報告を受けた後で説明を、病院が独立法人ですので、それが第一義的なことでもありますけれども、私も承知をしておきたいと思っています。

◆毎日新聞

分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。今月 21 日に期限を迎えます、まん延防止等重点措置についてなんですけれども、国は今のところ 17 日か 18 日か、ほぼ全て解除する見通しなんて報道も出ていますけれども、田辺市長自身は、まず、そのまん延防止の再延長、解除について、どういうふうにお考えを持っているのかというのが1点と、もう一つは、飲食店に対する、こういう非常に規制が厳しい、このまん延防止そのものに対する疑問の声

が多く上がっている中で、市長自身はどういうふうにお考えでしょうか。

◆市長

これは本当に難しいポイントだろうと思います。というのは、やはり感染者数が割と上下の変動が激しいですよね。ですから、直近になってみないと分からない、この前、静岡県も延長するかどうか、非常に直前まで検討して、延長するという国への要請につながったと報告を受けております。今回も同じだろうと思うんですね。願望とすると、収束をして延長はしないという方向性になるのが、ベストシナリオだと思えますけれども、直前の数値を見てみないと一概には言えないというふうに思っています。

◆静岡第一テレビ

現段階ではまだ判断できないという状況ですか。もう一つ、この飲食店に対する、例えば、川勝知事とかは、そもそも、飲食店に対する非常に規制が厳しい、まん延防止そのものに疑問を呈しているのですが、田辺市長自身はその辺の評価はいかがでしょうか。

◆市長

私も同感です、知事と。やっぱり国の立て付けが飲食店に対する金銭的な支援をすることになっていますが、現場を預かっている私の立場からすると、飲食店以外にもサービス業全般が、やはり、このことによって、ずいぶん痛手を被っているという現状がありますので、「なぜ飲食店ばかり」という気持ちも理解できます。しかし、国の立て付けがそうなっているので、その中で法の適用をすることになっているのだろうというふうに思っています。

◆司会

朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

すいません、清水のサッカースタジアムについて2点。一部の新聞で、エスパルスのホームスタジアムが、清水の駅前に、収容人員2万5,000人規模で、2026年頃、総事業費200億円規模というような、かなり具体的な記事が出ていたのですが、そこまで基本的な構想ができているのかどうか。それともう一点は、清水が、先ほど市長もおっしゃっていたとおり、海洋都市として大型海洋施設の構想もありますけれど、このスタジアムと両方並行して事業を進めていくのかどうか、優先順位はあるのかどうか、その点をちょっと聞かせてください。

◆市長

優先順位はもちろんあります。やはり我々は総合計画の中で、財源も見つつ、財政規律も守りつつ公的な投資をしていかなければいけない。民間の投資もお願いをするというような手法で市政の運営をしております。ただし、アイスタが、交通アクセスが悪いので、もっと便利な場所に移転してほしいというような強い市民の皆さんの要望があるということも受け止めております。今回の記事もそういう期待の表れではないかなというふうに思っております。J1の基準に照らし合わせても、現在のIAIスタジアムは屋根が不足しているといった様々な課題があります。抜本的な解決に向けて、新年度の予算において新しいスタジアムの検討、対する調査費も計上をしております。話題となったあの記事で具体的に議論されたEneosの遊休地は、JRの清水駅にも近く、十分な広さもあることから、十分な候補地になりえるというふうに理解をしております。それぞれ、しかしながら課題を有していると思いますので、ステークホルダーの皆さんとも、しっかり方向性を一にして、議会の皆さんとも対話をして、これから一つ、この取組、市民の期待に応えるべく取り組んでまいりたいというふうに思っています。来年度、新年度は、サッカースタジアムを生かしたまちづくり検討委員会を組織します。そこにおいて複数の候補地を比較検討して、秋頃には市民の皆さんのパブリックコメントにも付して、有力な候補地をお示しできるように進めてまいりたいという工程を、今、予定しています。

◆司会

よろしいでしょうか。

◆静岡朝日テレビ

優先順位は、はっきり言ってどちらなのでしょう。

◆市長

何の優先順位ですか。

◆静岡朝日テレビ

海洋文化施設と。

◆市長

それはもちろん、海洋文化施設がもう3次総の中に搭載をされている事業でありますから、それが先であります。ですので、先ほどのアリーナとかスタジアムは、これからその事業の枠組み等々を考えていかなければいけない。しかし、新年度の議論の進捗によって、それが、その後続く海洋文化拠点づくりの、賑わいの拠点づくりになると



いう可能性は大いに私は期待しているところであります。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。スタジアムの件、今のお話だと、あそこありきという話ではないと思うのですけれども、先般の知事定例(記者会見)では、知事も非常に前向きなコメント、歓迎するようなコメント、好意的なコメントを出していました。県がお金を出すことを検討してもいいぐらいのことまで言っていましたけれども、他方で、同じような場所に造る桜ヶ丘病院に関しては、半ば県の嫌がらせとも言えるようなことが幾つか見られます。まさに、私は、これダブルスタンダードだと思うのですけれども、この県の姿勢について、市長はどのように評価されていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

県と連携をして、どうしたら清水の活性化につながっていくのかということ、これから取り組んでいきたいというふうに思っています。

◆テレビ静岡

病院は駄目だけどサッカースタジアムは良いという、その姿勢自体は、おかしいという、違和感は、やっぱり市長としては感じます。

◆市長

そうですね。しかしながら、やっぱり清水港は県営港でありますので、県との連携は不可欠であります。私たちは2040年を目途にして、前田先生を座長にして一つのランドデザインを描きました。2019年の清水港の120周年の記念事業に合わせる形で、そこに県の方々も入っております。その中で、「清水駅の東口はこうなったらいいな」、という2040年ぐらいの思いがあります。それを受けて我々は4次総の中で、「2030年までここまで進めていこう」というビジョンを、今、検討しているところであります。その順番として、じゃあ海洋文化施設どうするか、桜ヶ丘病院、やはり、あそこで、これはスタートした事業ですので、早く開院をしてほしい、その先の話も含めて、県と一貫した一つの方向性で連携できればうれしいな、というふうに思っています。当然、県と一体となって、地域全体を防災に強い、防潮堤をはじめとした取り

組みをしていきたい。国にも要請をしているところであります。

◆司会

それでは、目途の45分を過ぎておりますので、ここで終了をさせていただきたいと思いますが、じゃあ、お二人手を挙げているものですから、いいですか。

◆市長

支局長、最後だから。

◆日本経済新聞

すいません、話題に出てしまったので、日本経済新聞ですけど、スタジアムの件、1点だけ、さっき、清水駅前、有力な候補地ですかね、おっしゃいましたけれども、さっきNHKさんが質問されたように、財政比率の問題も当然あると思うのですけれども、スタジアム建設するとなると、かなりの費用がかかると思うのですけれども、市としては、費用負担、仮に建設すると、仮定の話になってしまいますが、その場合、どういうお考えで臨まれるというふうに理解すればよろしいですか。

◆市長

公民連携の形で臨みたいと思います。まずその前の候補地をきちっと確定をするという作業がアろうかと思ひます。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは、以上で本日の会見を終わらせていただひたいと思ひますが、市長いかがですか。

◆市長

どうぞ。

◆司会

はい、お願いいたします。

◆SBS

市長、ありがとうございます。すひません、先ほどの第一(テレビ)さんと関連して、

ちょっと続ければよかったのですけれども、シンプルに、国が21日に全面解除の方針というのは、早いと思いますか、遅いと思いますか。

◆市長

難しい質問ですね。やむを得ないと思います。やむを得なかったと思います。

◆SBS

その理由は。

◆市長

やはり、“いのち”と“くらし”を守るという、我々のポリシーでもありますけれども、やっぱり、春先、やはり行楽シーズンが迫っておりますので、経済のことも考えなければいけないという、ぎりぎりの判断が21日だったのではないかなというふうに、私は受け止めています。

◆SBS

分かりました。最後1点だけ。3回目接種の接種率が、昨日、官邸ホームページで、昨日時点のものが一覧になって出たのですけれども、政令市で比べてしまうと静岡市がワーストなんですけれども、その受け止めと、また、理由。そして、今後の方針、最後お聞かせ願えますでしょうか。

◆市長

大阪市とデッドヒートを演じているというふうに報告をもらっていますけれど、これから挽回してきたいと思っています。1回目、2回目も最終コーナーで挽回して、そして、むしろ上位に行きました。結局、その影響もどうしても3回目、私ども受けているんですよね。だから、最初の頃はやっぱり、まだ6カ月すぎていない、当時は8カ月でしたけれども、ということで接種率が伸びなかったということがありますけれども、後半に強い静岡市でありますので、これからに期待をしてほしいし、接種の啓発を、ぜひ報道機関、SBSさんにもお願いしたいなというふうに思っています。

◆SBS

条件はたぶん各市一緒なんですけれども、静岡市が、なんでこう遅くなってしまっているのか、というところは。

◆市長

先ほど申し上げましたとおり、1回目、2回目のやっぱり影響を受けてしまったなど

いうふうに感じています。

◆SBS

1回目、2回目もたぶん条件は同じじゃないですか。それでも、ちょっとスタートダッシュに遅れたのはなぜだと思いますか。

◆市長

やっぱりいろんなことが重なったんですね。何度も会見で申し上げていることですので、そこを検証して前向きに今持ってきているつもりでありますし、今回、もう一度、急ぎよ、集団会場を、明日、明後日ということで、ワクチン量を確保して、一生懸命、現場はやっておりますので、そういった中で私はこれから追いついていきたいなということを感じています。

◆SBS

課題点が見えてないと、なかなか改善点も出てこないのかな。

◆市長

課題点、たくさんあるんですよ、本当に。課題、ここで、私、昨年述べたのですけれども、それは当事者から言ってもらったほうがいいかな、今日は統括監だな、局長がね、反省はしていると思います。反省はしています。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田と申します。3回目接種の接種率が静岡市は伸びていないという状況なのですが、一つは、前回の定例記者会見の時にもお話ししたかもしれませんが、接種券の送付の前倒しが非常に厳しい状況がございまして、2月に、なかなかそれが前倒しができなかったというのが一つ、大きな要因かなというふうに思っております。で、現在は接種券につきましては、6カ月経過直後にお手元に届くという形になりますので、接種券のスケジュール的には追いついておりますが、接種券を送った割には十分に予約が入ってきていないという状況が一つございまして、ぜひ、そこにつきましては、市民の方に、とにかく3回目の接種は打っていただいて感染の拡大を防ぐというところを、周知徹底していきたいというふうに思っております。以上でございます。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

それでは、以上で本日の記者会見を終了させていただきます。次回は3月29日の火曜日の予定です。本日はありがとうございました。